

TOPIC

環境衛生の可視化が新しい♪  
「ICS事業部の清掃品質チェック」

POINT① これまでの病院清掃業界の清掃品質のあり方

これまで、病院清掃の品質の観点は、オフィスビルやショッピングセンターなどの一般の建物と同様に、目に見える汚れがあるかないかが中心でした。病院や患者様にとって本当に必要な「汚れを微生物汚染の少ない方法で取り除いたか」「目に見えない微生物汚染をどれだけ取り除けているか」といった部分は、長い間なおざりにされていた現実があったのです。  
『キレイ』から『清潔』へ、求められる清掃品質のあり方が変化しています。



POINT② 環境衛生の観点が、院内の感染対策を支える

そのような時代背景の中で、新日本ビルサービスICS事業部では「環境衛生」に主眼を置いた清掃品質チェックに取り組み、院内の感染対策を環境面からサポートしています。



環境表面の清浄度を数値化する『ATP<sup>1</sup>測定』で清拭の徹底具合を確認します。



床の平滑度を数値化する『光沢度<sup>2</sup>測定』で汚染を除去しやすい床を維持！



清掃のみならず、設備も！エアコンや吸気口はカビ<sup>3</sup>の温床なので念入りに……

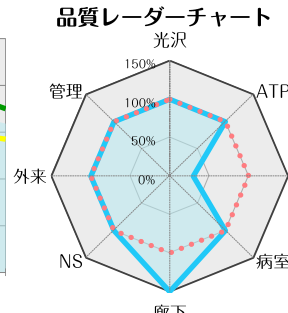
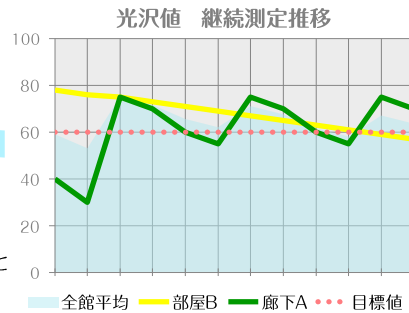


清掃範囲外でも、ホコリ<sup>4</sup>がないかチェック。清潔な療養環境を追求します。

POINT③ グラフ化から見える、清掃の最適化への道

結果はグラフ化し、傾向を分析することで、状況に応じた業務のアレンジを行ない、コストはそのままに患者様の療養にとって最適な病院清掃を目指しています。

『定期清掃全館年2回』などの契約が多い清掃業界。実は数値をとってみると年1回でいいところもあれば年3回必要のところも。コストは変わらずもっと上の品質を目指すことができるんです！



清掃は、色々な要素に分けられます。室種で区分することもあれば、さらにその中の天井、壁、床、衛生陶器なども……それらをレーダーチャートに表すことで品質の凹凸がわかるのでより効果的な改善が可能になります。

VOICE ▶ 次号では、清掃品質チェックを元にした品質レベルの改善についてお伝えします♪

\*1 ATP: アデニン三リン酸。生物の体内や体液に必ず含まれているため、測定結果からそこが生物的にどれだけ汚染されているかがわかる。  
\*2 光沢度: 鏡を100とした時に、どれだけ反射率があるかを数値化する。これにより表面の凹凸状態がわかるため、ワックス表面から内部へ汚れの粒子が入り込みにくく、一定以上の清潔さが容易に保てるような床表面を維持するための指標として用いている。  
\*3 カビ: 黒カビの一種であるアスペルギルス属は、アスペルギルス症という日和見感染症をひきおこすため、医療福祉施設では注意が必要。  
\*4 ホコリ: 衣類やリネン類からの繊維や綿、人間の髪の毛や皮脂が含まれており、細菌や真菌にとって良い生育環境になっている。